

ま な び や

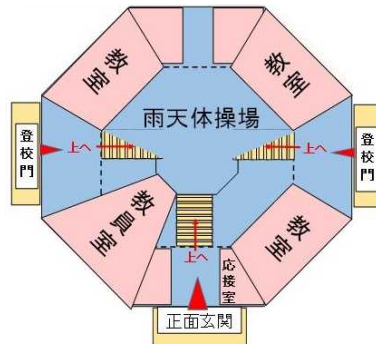


龍翔小学校校舎模型：1915(大正4)年頃製作

木造五層八角形・銅板葺き白亜の校舎 旧・龍翔小学校

【名付け親は、旧福井藩主松平春嶽】

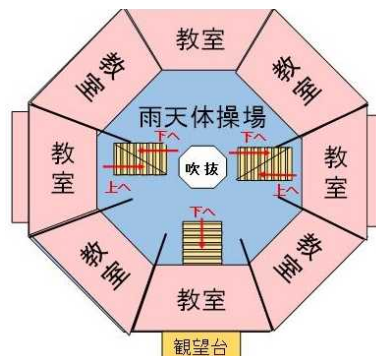
龍飛小(M9) → 三国尋常高等小学校(M25)
→ 三国南小学校(S22～現在)



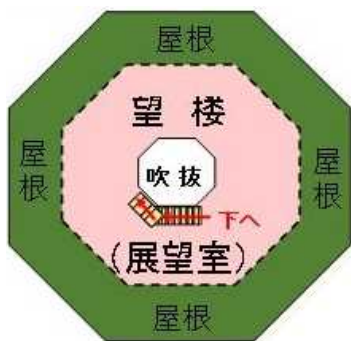
明治期の教育
国民皆学のあゆみ
明治五年、学制発布により
新しい教育制度がスタート



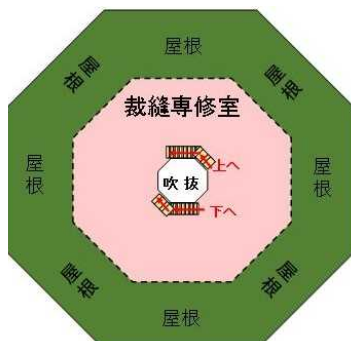
明治12年完成直後の校舎遠景
(現在の南小学校は、三国町山王)



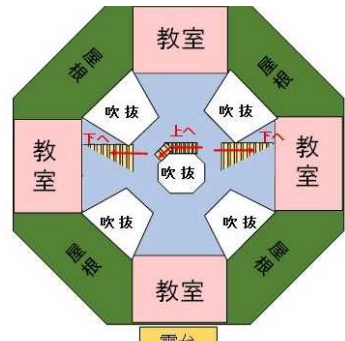
2階平面図
し、県内各地で小学校が設立
されました。産業を振興し社
会の近代化を進めるためには
教育が重要なものでした。
当時、三国湊は空前の繁栄
期にあり港民はシンボルとな
る小学校建設を計画し、オラ
ンダ人エッセルにデザインを
依頼して一八七九(明治12)



5階平面図



4階平面図



3階平面図

年川沿いの高台に完成。5階
望楼(展望室)からは、五里
四方、福井まで見えた様です。



研究会の様子(三国尋高小)



授業の様子(三国尋常高等小)

明治後期から大正期に入ると、これまでの画一的な教育スタイルから、子どもの関心や感動を中心に、より自由で生き生きとした教育の実践が広まってきました。折からの大正デモクラシーの風潮を追い風に、こうした動きは「大正自由教育運動」と呼ばれました。県内では福井県師範学校附属小や三国尋常高等小学校を中心に、研究授業や相互参観、教科研究会が活発に行われ、全国から多くの視察者が訪れました。

大正期の教育
自由教育運動